

広報 **きたもと**

6月
2020 No.988

特集面

きっと、もつと、きたも트가好きになる 旬な話題をお届け!



公共施設

& green

【マンガタイトル】
公共施設の今とミライ

マネジメント実施計画

〈漫画のイラストは北本市役所広報担当課長が勤務時間外に作成したものです。〉



維持管理の限界

建築後30年以上経過している施設は7割に達し、大規模改修工事により長寿命化を図りたいものの、厳しい財政状況の中で、すべての施設の改修工事等を行うのは困難な状況です。

このままでは改修工事等のできない建物が増え続け、機器の故障等による使用停止や外壁の落下、建物の倒壊などの恐れが高まっています。

維持管理の限界は近づいており、人口減少が進行する中、公共施設はいま大きな転換期を迎えています。

人口減少と少子高齢化

市の人口は1970年からおおむね増加傾向が続く2005年をピークに減少が続いています。今後も減少傾向が続く、2055年には4万人を下回ることが予想されます。年齢構成を見ると、今後さらに顕著な少子高齢化が進むことが予想されています。

一方で高齢化により、医療や介護などの社会保障関係経費が増大し、公共施設の維持管理に充てる財源確保は増々困難な状況になっていきます。



将来費用の試算

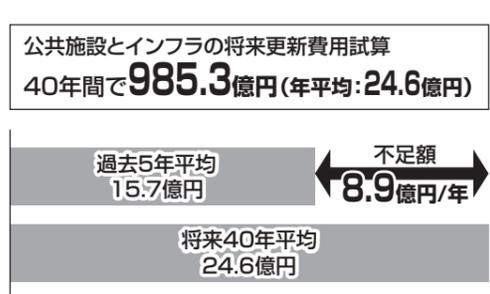
公共施設とインフラ（道路、下水道等）の今後40年間の更新費用について、国の示す基準を使って将来費用の試算を行いました。その結果、40年間で約985.3億円。年間にすると24.6億円が必要となり、過去5年間の公共施設等にかけてきた投資的経費の平均額15.7億円に対して8.9億円の超過となりました。

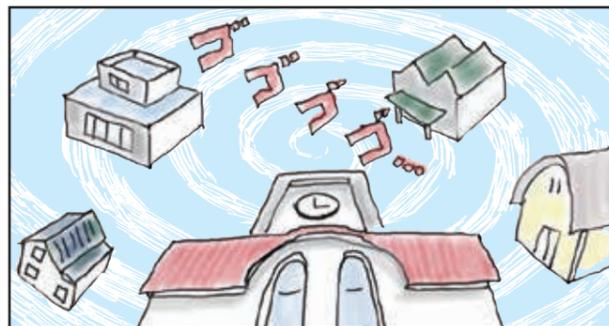
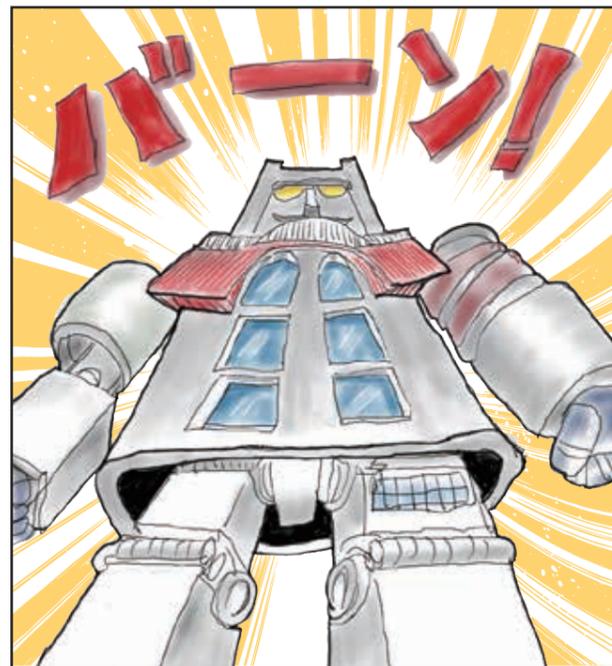
進行する公共施設の老朽化

市内の公共施設は、94施設あり、15万㎡にもなります。昭和40年代から50年代にかけて、人口増加や時代のニーズに対応すべく、急ピッチに整備してきました。

そのため、令和2年6月現在で施設棟数の約50%、延床面積の約70%が建築後30年以上経過しています。

小中学校施設については、耐震改修工事とともに大規模改修工事の実施割合は高いですが、文化センターや公民館などは実施されておらず、雨漏りや空調機の故障、外壁や内壁の損傷など、老朽化は進行しています。





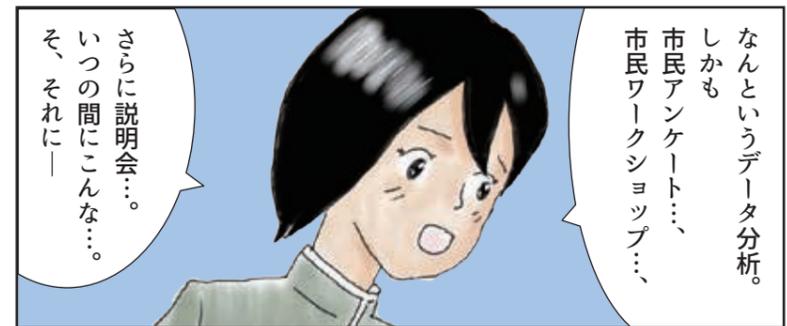
- ・ 学校：再編をすべき／廃校の利活用として地域交流拠点、保育施設、福祉施設、防災施設など。
- ・ 公民館等：集約化、学校との複合化／高齢者や子どもの居場所、子育てや地域交流の場
- ・ 文化センター：市のシンボリック存在。図書館は残す／イベントの魅力化、駐車場の確保、民間活力導入による利用向上／公民館とのすみ分け、プラネタリウムの必要性

市民ワークショップ意見

- ・ 公民館等の利用者の約70%は女性、60代以上が70%であり、高齢女性の生きがいの場となっている。
- ・ 利用目的はスポーツ系サークル42%、文化系サークル30%で、卓球、ダンス、ヨガなどが多い。
- ・ 利用頻度は週1回程度が約半数、類似施設も利用する人は約60%。

施設利用者アンケート結果

- ・ 学校への複合化の際には、子どもの安全性や学校運営に配慮することが重要。
- ・ 文化センターは中央図書館もあり、最も使われている。



市民アンケート結果

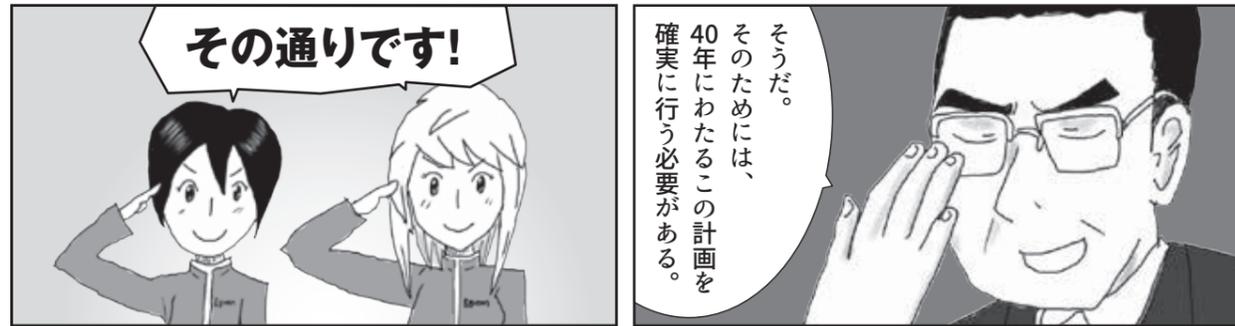
・ 約8割以上が集約や複合化について仕方がないと考えている。

これからの公共施設の具体的な方向性を示していくためには、時代の変化に伴う市民ニーズを反映していくことが最も重要であると考え、市民事前説明会、市民アンケート、施設利用者アンケート、市民ワークショップ全6回等を行い、意見を伺ってきました。

市民ニーズの反映

「今後40年間で公共施設の延床面積を50%削減する」という目標を掲げた北本市公共施設等総合管理計画を推進していくために、平成30年度から3年間で公共施設マネジメント実施計画の策定を行っています。今後40年間の公共施設の方向性を示す適正配置計画と10年間の施設ごとの具体的な工事などの実施内容を示す個別施設計画から構成されます。

未来を見据えた計画



未来に負担を残さず、魅力ある施設を残そう!

旧校舎をリニューアル

公民館等
 ・生涯学習機能
 ・体育機能
 ・図書室機能
 ・集会室機能

健康増進センター
 ・娯楽機能(将棋・囲碁等)
 ・高齢者サロン

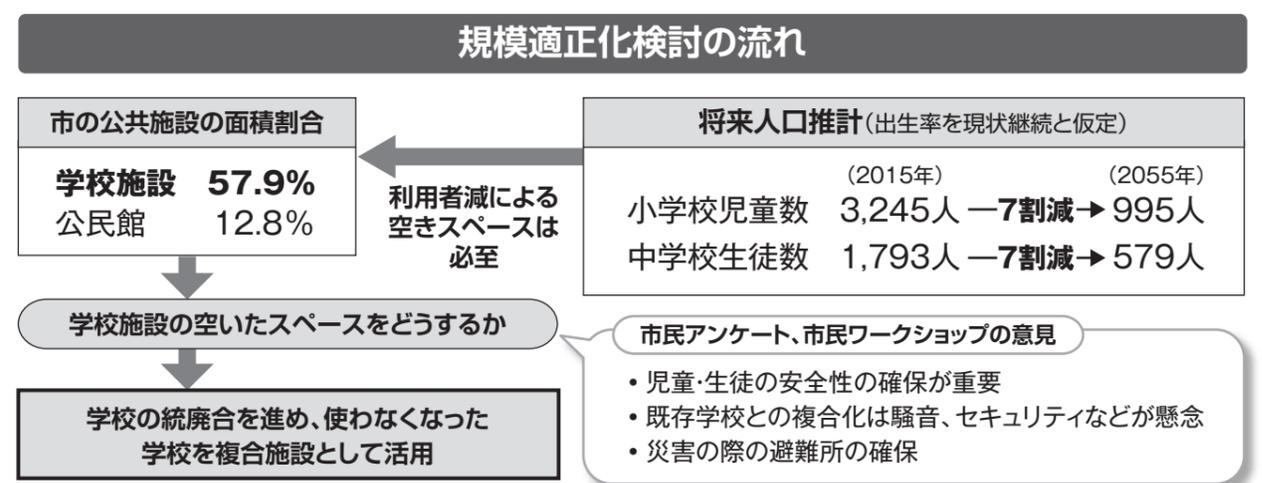
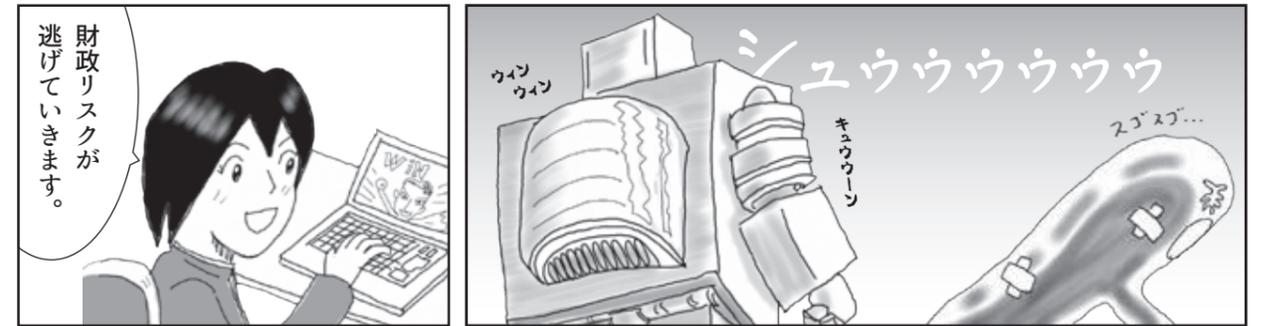
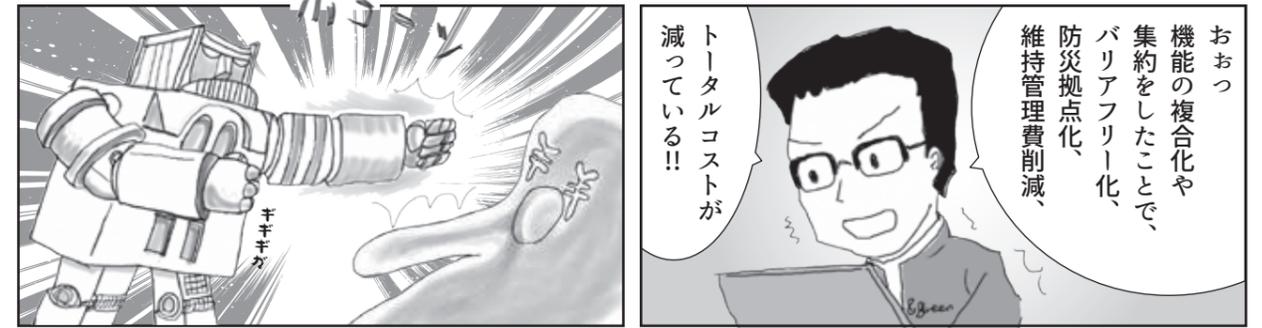
新たなニーズ等
 ・高齢者や子どもの居場所
 ・ギャラリー等
 ・学習室

体育センター
 ・貸部屋機能
 ・トレーニング室機能(一部のみ)

複合施設の一例



その実現には市民の皆さんの協力が必要!!
 施設を使っている人、そうでない人、今後使う人、そう、みんなで考えてー



新しい公共施設のカタチ

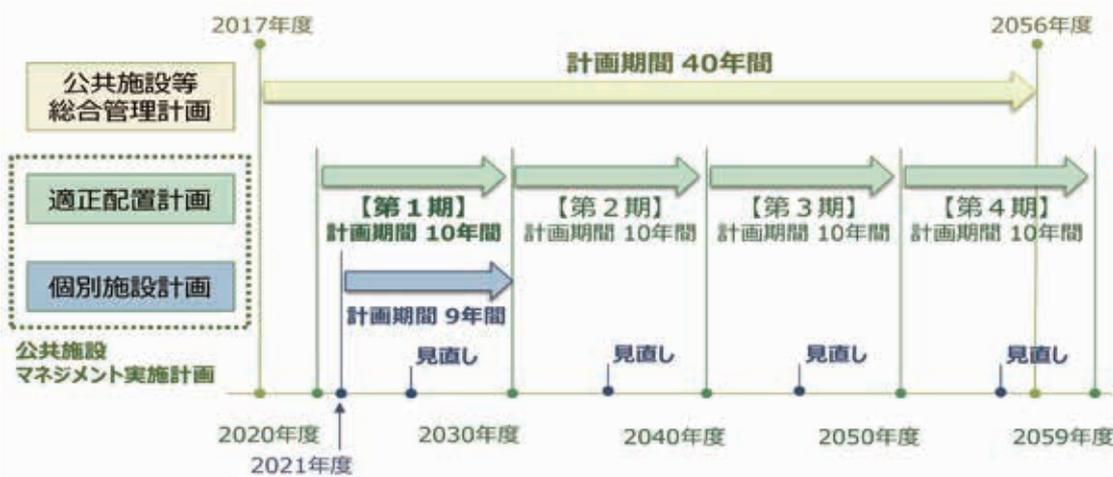
延床面積50%削減という目標を考慮したうえで、市民ニーズの調査結果、小中学校の児童生徒数の推計と北本市立学校の適正規模等に関する基本方針、広域避難所の維持、跡地の利活用の可能性などの諸条件を整理し、今後の公共施設の方角性を審議会で検討してきました。

その結果、少子化により使わなくなった学校を活用し、生涯学習機能や体育機能、新たなニーズ等を加えた(仮)市民活動交流センターとして整備していく方向性となりました。

今後市内に4つの拠点

今後使わなくなると想定される学校を活用し、4つの(仮)市民活動交流センターを段階的に整備していく方向性としています。

様々な機能を複合化することで、市民交流の拠点となり、高齢者や子どもの居場所づくり、利用者相互の交流、新たな活動のきっかけづくりなどが期待されます。



現在、適正配置計画をもとに施設ごとの個別施設計画を策定中です。

北本市の取組みの現在地

計画のスケジュール	2016年度	2018年度	2019年度	2020年度
計画の進捗	公共施設等総合管理計画の策定	適正配置計画の検討	適正配置計画の策定 現在地	第1期個別施設計画の策定
説明会など	パブリックコメントの実施 説明会の開催	事前説明会、アンケート、ワークショップなどの開催	審議会の開催 パブリックコメントの実施 説明会の開催(延期中)	パブリックコメントの実施(1月予定) 説明会の開催(3月予定)

市長メッセージ

未来の北本市に
過度な負担を残さず
良い資産を引き継ぐ



本市においては、平成28年度に「北本市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設とインフラの将来費用の試算を行いました。その結果、現在保有する公共施設の全てを同じ規模で維持することは困難であるため、次世代に負担を継承しないために、人口や財政規模に応じた公共施設の適正な規模やあり方についての方針を定めました。

今回策定した「北本市公共施設適正配置計画」は、「北本市公共施設等総合管理計画」で定めた方針と目標を実現していくために、第五次北本市総合振興計画の基本理念である「市民との協働による持続可能なまちづくり」のもと、市民事前説明会、市民アンケート、

施設利用者アンケート、市民ワークショップによる意見聴取、北本市公共施設等総合管理計画推進審議会での検討を実施し、施設ごとの今後の方向性について、様々な視点から検討した結果をまとめたものです。

未来の北本市を担う若者や子どもたちに過度な負担を残さず、良い資産を引き継いでいくためにも、公共施設の適正配置を避けて通ることはできません。総論賛成・各論反対ではなく、「自分事」として捉えていただくことが重要です。

実施にあたっては、市民の皆様をはじめ、地域、関係団体の意見を伺いながら、進めてまいりますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

令和2年3月に公共施設マネジメント実施計画のひとつである適正配置計画を策定しました。詳しくは市ホームページをご覧ください。

なお、令和2年3月に北本市公共施設適正配置計画説明会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、説明会を延期しています。開催日が決まり次第、改めてお知らせします。 施設マネジメント課施設再編担当 ☎511-1061

